



## Dell シンクライアント検証機 Quick Start Guide WES7 機編

本ドキュメントでは、Dell より貸出させていただいた、シンクライアント機（WES7 モデル）をご利用いただくための基本的な概念と操作方法について説明しています。

### OS の起動

通常の PC と同様に電源ボタンを押していただくことで、Windows Embedded 7 が起動します。通常の Windows 7 とは異なり、ログオン画面は表示されずに一般ユーザとしてログインした状態でデスクトップが表示されます。

### アプリケーションの起動

既存で導入されている Internet Explorer や各種 VDI 接続用のクライアントアプリケーション（Citrix Receiver、Remote Desktop Client、VMware Horizon Client）などを使用して、各種接続先へ接続を行います。

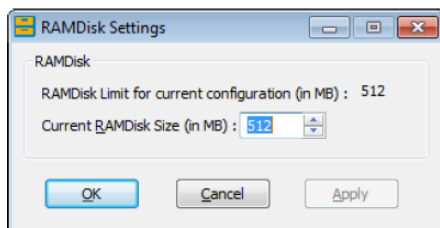
### RAMDisk の動作について

シンクライアントではメモリ領域を使用した一時的なストレージ領域として RAMDisk を持っています。既存では Z ドライブとして認識されます。また、下記書き込みについても全て RAMDisk へ書き込まれる仕様となっており、OS 再起動時に失われます。

- ブラウザの Web ページキャッシュ
- ブラウザの履歴
- ブラウザのクッキー
- ブラウザのキャッシュ
- 一時的なインターネットファイル
- プリントスプール
- ユーザおよびシステムの一時ファイル

RAMDisk は管理者ユーザでログインし、コントロールパネル内の『Dell Wyse RAMDisk』より設定変更が可能です。

RAMDisk の最大容量は搭載メモリ容量 4GB 以下の端末ではメモリ容量の 20%、4GB より大きい端末ではメモリ容量の 10%程度として頂くことを推奨しています。※2GB 以上搭載の端末での最大の RAMDisk サイズは 1GB です





### Write Filter の動作について

Windows Embedded 7 では Write Filter が有効になっています。Write Filter が有効になっている状態では、フラッシュ（Cドライブ）への書き込みはできず、ユーザが加えた変更、保存したファイルは全てメモリ上の Write Filter のキャッシュとして保存され、再起動時には失われる仕組みとなっています。このため、ネットワークの設定や追加したアプリケーションも再起動によって失われることとなります。アプリケーション導入などシンクライアント端末に変更を加える場合、管理者ユーザとしてログインし、Write Filter を無効化してから、変更作業を実施する必要があります。

### 管理者ユーザ（Administrator）としてのログイン方法

OS 起動時またはユーザログオフ時に『Shift』キーを押し続けることで、ログインユーザの選択画面に遷移します。この画面より Administrator としてログインすることが可能です。ログインパスワードは以下の通りです。『**DellCCCVdi**』です。

機種	パスワード
5010, 5020, 7010, 7020	Wyse#123
その他	DellCCCVdi

### Write Filter 無効化手順

管理者ユーザでログオンするとデスクトップ上に[FBWF Disable]のアイコンが表示されています。このアイコンをダブルクリックして実行します。実行すると OS が自動的に再起動されます。再起動後に再度、管理者ユーザとしてログインして、必要な変更作業を実施します。



### Write Filter 有効化手順

変更作業完了後は[FBWF Enable]のアイコンを実行して Write Filter を有効にします。FBWF Enable を実行すると自動的に OS が再起動します。





## OS 環境の初期化方法

様々な設定変更を試された後に、初期化（工場出荷状態）に戻したいといった場合には、以下の様な初期化手順を実施してください。

### 1. OS イメージの入手

Dell Wyse Support Download ページにアクセスします。

<https://appservices.wyse.com/pages/serviceandsupport/support/downloads.asp>



Support

Support Downloads

To find available downloads for your product, please select your model from the list and then click [Search]. If you need further assistance, or information that you are seeking is not found, please visit our [www.dell.com/support/wyse](http://www.dell.com/support/wyse)

The Wyse trial and evaluation software request form has moved to [marketing.dell.com/t2d-wyse](http://marketing.dell.com/t2d-wyse)

Product Downloads

Active: > Please Select a Model < Search

Retired: > Please Select a Model < Search

Terms of use | Privacy statement | Copyright 2014 Dell Inc.

Active の選択肢からお使いのシンクライアントを選択します。本サイトは古い機種名称での記載となっているため、下記を参考としてください。

機種名	表示名
Wyse 3030	3290
Wyse 5010	D90D7(WES7), D90D8(WES8S)
Wyse 5020	D90Q7(WES7), D90Q7P(WES7P), D90Q8(WES8S) , D90Q10(Win10 IoT)
Wyse 5060	5060
Wyse 7010	Z90D7(WES7), Z90DE7(WES7), Z90D8(WES8S)
Wyse 7020	Z90Q7(WES7), Z90Q7P(WES7P), Z90QQ7P(WES7P), Z90Q8(WES8S), Z90Q10(Win10 IoT)
Wyse 7040	7040
Latitude 3460	Latitude 3460
Latitude E7270	Latitude E7270



Firmware Download より OS イメージをダウンロードします。Xxx.Ja-jp.exe となっている最新の日付のファイルをダウンロードしてください。

3.5GB を超えるアーカイブは 7zip または WinRAR などのユーティリティを利用して解凍してください。

## 2. USB Image Tool の入手

OS イメージをシクライアント端末へ導入するには USB Image Tool を利用します。以下のサイトより最新の USB Image tool を入手します。

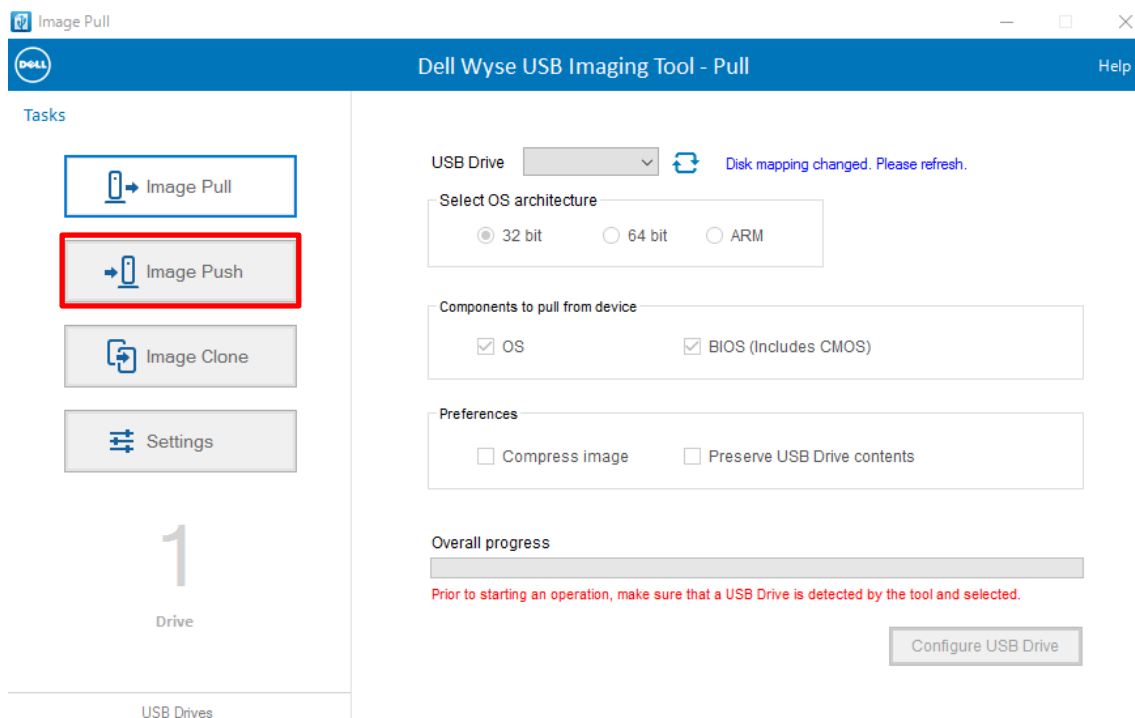
<https://downloads.dell.com/wyse/USBFT/>

作業用端末にて、ダウンロードした exe ファイルを実行して USB Image Tool をインストールします。

## 3. OS イメージ展開用 USB フラッシュモジュールの作成

USB Image Tool を使用して OS イメージ展開用の USB フラッシュモジュールを作成します。

USB Image Tool を立ち上げて、左の Task ペインより『Image Push』を選択します。



次に右ペインにて下記を設定し、最後に右下の『Configure USB Drive』ボタンをクリックします。

- USB Drive: OS 展開用 USB フラッシュを作業端末に接続し、そのドライブ名を選択します
- Select OS architecture: 32bit とします

- Images on USB: 右上の『+』マークを選択し、手順 1 で展開したファイルの「xxx.rsp」ファイルを選択します

Tasks

- Image Pull
- Image Push
- Image Clone
- Settings

1 Drive

USB Drives

USB Drive: E:\

Select OS architecture

32 bit  64 bit  ARM

Images on USB

Image Name	OS	BIOS	Size (MB)	Location
BEB0_0869_16GB_Ja-jp	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	4718.00	D:\Work\WyseSoftware\BEB0_0869_...

USB space used: 0 GB / 28.86 GB (Used: 15%)

Overall progress

Configure USB Drive

右下に「Successfully configured the USB Drive. USB Drive can be removed」と表示されたら USB フラッシュの作成は完了です。

#### 4. OS イメージの導入

手順 3 で作成した USB フラッシュモジュールからシンクライアント端末へ OS イメージを導入します。

初期状態では USB からのブートが Disable となっているため、シンクライアント端末を起動し、BIOS メニューから USB boot の設定を“Enable”へ変更します。BIOS メニューへの入り方、及び USB ブートさせるための One Time Boot メニューへの入り方は以下の通りです。

機種	BIOS メニュー	One Time Boot メニュー
3030, 5010, 5020, 5060, 7010, 7020	Del キー	P キー
7040, 3460, E7270	F2 キー	F12 キー

USB ブートに成功すると図 1 の様な画面が表示されます。「PUSH an Image to device from USB key」を選択して、Enter を押します。



図 1 USBブート後の画面①

次に図 2 の様な画面が表示されますので、最上段にあるイメージ名を選択し Enter を押します。



図 2 USBブート後の画面②

最後に図 3 の画面が表示されますので、「YES」を選択し Enter を押します。



図 3

その後は図 4 の画面が表示され、OS イメージの導入状況が示されます。OS イメージの導入が完了すると図 5 の画面が表示されますので、USB フラッシュモジュールをシンクライアント端末から取り外し、Enter を押します。



図 4

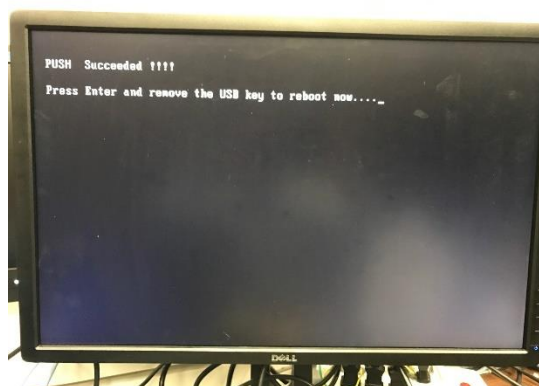


図 5



シンクライアント端末は自動的に再起動され、WESの初期化が開始されます。デスクトップが表示された後も、初期化スクリプトが自動実行されている状態のため(図6)、そのまま触らずに放置します。3回自動的にリブートが行われ、図7のように画面上にコマンドプロンプトが表示されなくなり、デスクトップ上に「Citrix Receiver」「Remote Desktop Client」「VMware Horizon View Client」他のアイコンが表示され、タスクバー上に「Dell Wyse Client Information」が表示されたら初期化は完了です。(機種によって若干表示が異なります)

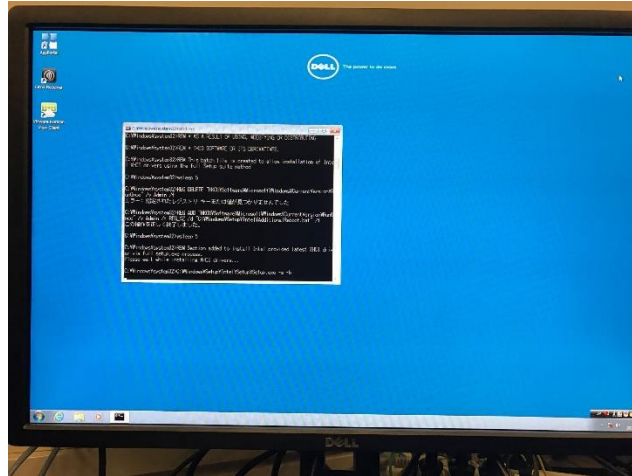


図 6 初期化スクリプト実行中

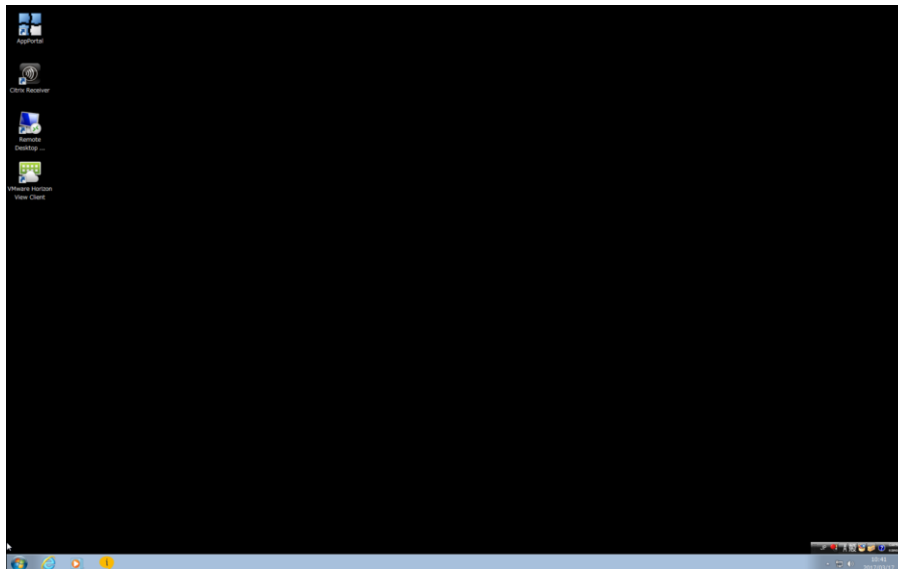


図 7 初期化完了後

以上